

生命尊重の教育におけるモデリング

足利市立筑波小学校

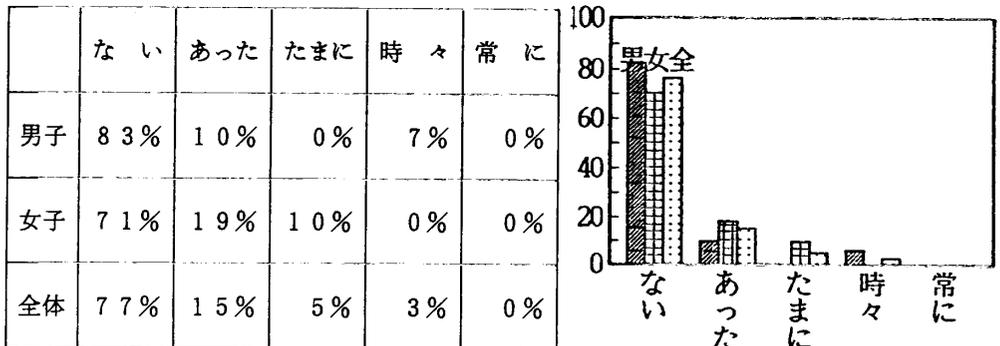
伊 藤 順 一

1 はじめに

近年、青少年のさまざまな問題行動が増加し、大きな社会問題となっている。問題行動は子供たちの発達が妨げられていることを示す兆候であり、また問題行動は子供たちの健全な発達を妨げていることになる。さらに反社会的問題行動、非社会的問題行動の特徴を見ると次のようなことが言えるであろう。(1) 非行の低年齢化傾向 (2) 一般化傾向 (3) 女子の非行の上昇傾向 (4) 遊び型化非行の増加傾向 (5) 非社会化傾向の増大 (6) 非行の多様化現象等をあげることができる。

最近では反社会的問題行動といわれる「非行」「不良行為」の領域にあった生徒間暴力、恐喝などもいじめに組み込まれ、いたずら、ふざけ、からかい、いやがらせなど幅広い行為を含んで「いじめ」という上位概念が人々の頭の中に成立し大きな社会問題となっている。また、社会問題となっているものに子供の自殺の増加があげられる。しかも、10歳から14歳の子供に増加がみられ、「自殺」も低年齢化傾向にあると言えよう。自殺の原因として大きな割合をしめているものに学校の成績、いじめなどを人間関係があげられているが、子供たちは想像以上に悩んでいることを理解しなければならないであろう。さらに見落としてはならないものに潜在的自殺志願者の数が以外に多いということである。最近、子供たちに人気のある若い女性歌手が自殺したことによって、年少者の自殺が連鎖的に見られたことから言えよう。本校の6年児童61名について「あなたは、今までに死んでしまいたいと思ったことがありますか。」という調査をしてみると、《図1》のような結果が見られた。

《図1》 死にたいと思ったことがあるか



この結果からも男子で17パーセント、女子にいたっては29パーセントと多く3人に1人は死んでしまいたいと思った経験を持っていることになる。このような潜在的自殺志願者数は本校の児童だけが特に多いということではないであろう。おそらく同年代の児童においては、このような傾向がみられるものと思われる。もちろん、死んでしまいたいと思った深刻さの違いはあるであろうが、このような児童の実態をとらえておく必要がある。人間は逆境に弱く、その逆境の状況によっては、自暴自棄に陥りやすく、ある時には非行、いじめなど他者に対しての攻撃へと転じ、ある時には自己への攻撃として自殺へと走らせることになる。従って、自己確立の途上にある子供たちに、逆境に対して耐える力と、明日への生きがいをどのようにして育てていくのかを考えることが急務であろう。

2 本校における生命尊重に関する指導

本校では生命尊重の教育を強力に推進していくため、次ページのような生命尊重に関する指導構想を立てて取り組むことにした。

(1) 教科の指導内容の見直し

各教科における指導内容及び教材について、生命尊重という視点から見直した題材一覧表を作成し指導の系統性を図る。

(2) 道徳の時間の充実

生命尊重に関する主題については全学年指導の重点として、指導の時間を多く設けていることは当然であるが、生命尊重にかかわる主題についても児童の実態に合わせ、各学年ごとに重点を設けて指導にあたる。

(3) 特別活動の年間指導計画の改善

特に学級指導や学校行事等の年間指導計画を見直し、保健指導・安全指導の領域についての指導時間を多くとるとともに、具体的事例を通して指導する。また、各種委員会活動を中心に動植物の飼育・栽培活動を活発にする。

3 第6学年の生命尊重に関する指導構想

学校の指導構想を受け、第6学年としては次ページのような生命尊重に関する指導構想を立てて実践することにした。

高学年のねらいである「生命の尊さ」「自他の生命の尊重」の態度を育てるためには、肉体的にも、精神的にも、人間としてよりよく生きようとする児童を育成することにあると考え、「人間としてよりよく生きる」ことを指導の重点にすえ、具体的な場を設定しながら指導していこうと考えた。

次に、児童が「人間としてよりよく生きる」ために、どのような場でどのような学びとり方をしているのか、実態を調査しながら指導した実践例をあげてみたい。

——生命尊重に関する指導構想——

<p>発達段階に応じたねらい</p>		<p>植物や動物にも生命があり、一度失われた生命は再びとりもどせないことに気付かせ、生命を大切にしようとする態度を育てる。</p>		<p>指 導 の 場 と 意 図</p>	<p>具 体 策</p>
		<p>低 学 年</p>	<p>中 学 年</p>		
<p>自分の生命を、かけがえないものと自覚し、また他の人々の生命も同様に尊重することができる。児童を育成する。</p>		<p>発達段階に応じたねらい</p>	<p>各 科</p>	<p>国語、社会、理科、体育などの時間で、生命尊重に関する指導内容を扱う際に、その意義を理解させ、関心を持たせる。</p>	<p>教 職 員 研 修</p>
<p>低 学 年</p>	<p>中 学 年</p>	<p>道 徳</p>	<p>生命尊重に関する内容について、各学年2主題程度扱い、かけがえない生命の尊さを理解させ、生命尊重の心情や態度を養うようにする。</p>	<p>特別活動</p>	
<p>高 学 年</p>	<p>生命の尊さを自覚させ、進んで自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。</p>	<p>そ の 他</p>	<p>朝会等で、生命尊重に関する具体的事例をとりあげて、関心を高める。</p>	<p>その他</p>	

読書発表会（人間としての生き方のモデリング）

1 学級児童の規範の実態

もしも人間が、自分自身の行動の結果によってしか行動のしかたを学ぶことしかできないのだとしたら、青少年の人格が健全に発達し、社会的に適応し、人間としてよりよく生きていくための学習はひどく骨のおれることになろうし、健全な人格が形成されることが危ぶまれることにもなるであろう。しかし、人間の行動はモデリングによって観察行動を介して学ばれる。他人の行動を観察し、その行動の結果が社会の中でどのように評価され、受け入れられるのかを獲得することができる。人間はそれらを規範として新しい行動をどのように遂行すればよいのかのアイデアを作り上げる。そしてこのコード化された情報が実際に行動を起こす以前に、その行為のしかたの道標となって働くことになる。少なくとも近似的な行動例から学ぶことができるから、無用な誤りを犯さずに済んでいるといえよう。

そこで、学級の児童たちはどのような場で、どのようにモデリングをしているのか実態調査を実施してみた。

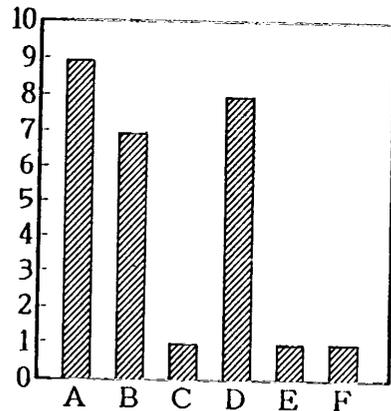
調査人員……6年1組（男子15名 女子15名 計30名）以後調査人員は略す。

(1) 調査 1 身近な人で尊敬している人

児童の日常生活の中で身近に接している人の中で、どのような人をモデルとしているのかを複数応答を可として回答させた。

《図-2》身近な人で尊敬している人

記号	尊敬している人	人数	百分率
A	お父さん	28名	93%
B	お母さん	22名	73%
C	祖父母	3名	10%
D	学校の先生	25名	83%
E	友達	5名	17%
F	その他	3名	10%



この調査から見ると、児童の身近な人の中では父、母、教師の行動を観察し、その行動を規範として学んでいるといえよう。また、高学年になると友達との学習や作業、遊びを通しながら友達の行動を観察し、その行動を規範としていこうとする傾向が大きくなるものと思われる。このことから教師や親は襟を正すとともに、子供の交友関係については細心の注意をはらって、子供の指導に当たる必要があるといえよう。

また、父親、母親、教師に対して尊敬や信頼をしている理由として、次のような理由を上げている。

【父親】……○家族のために働いてくれる。○立派に育ててくれた。○がまんづよい。

○自分には厳しく人には優しい。○生きる大切さを教えてくれる。○家族の先頭に立ってくれる。○悪い時に叱ってくれる。

【母親】……○優しく育ててくれた。○忙しく働いている。○将来のことを教えてくれる

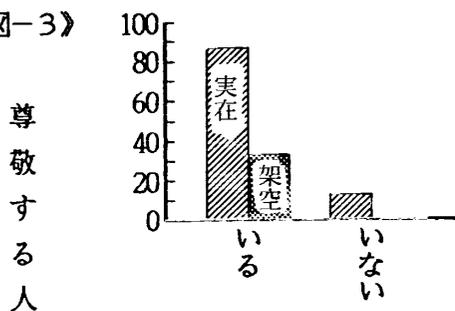
○生きる大切さを教えてくれる。○しつけをしてくれる。

【教師】……○世の中で大切なことを教えてくれる。○学ぶことの大切さを教えてくれた

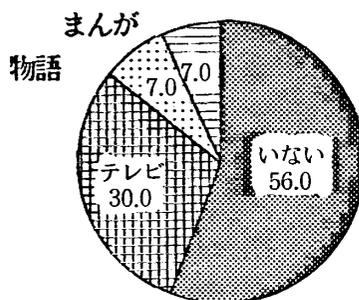
○生き方や考え方を教えてくれた。○自分に正直に生きている。○人間尊重の大切さを教えてくれた。○何事にも最善をつくしている。○私たちが立派な人間に育てようとする姿が素晴らしい。○一生懸命に教えてくれる。

(2) 調査 2 身近な人以外で尊敬している人 (実在した人・架空の人でもよい) についての応答の結果は《図-3》《図-4》の通りである。

《図-3》



《図-4》 尊敬する架空の人



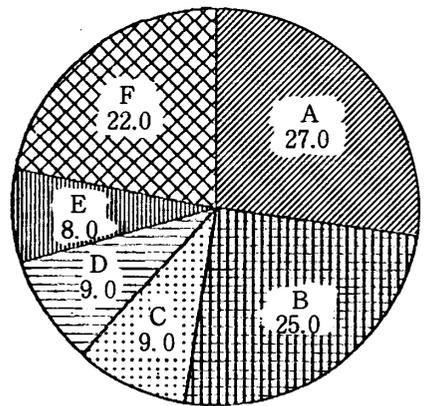
この結果を見ると、自分の生き方や考え方のモデリングとして、身近な人たちから観察の視野を広げてきている。特にテレビの中のモデルたちは人々の注意を引く力が大きいため、特別学ぼうとしなくても、見たことのほとんどを学んでしまう。テレビが子供たちに与える影響は、ますます大きくなるであろう。この点からもテレビ視聴に対する指導の必要性があると思われる。

(3) 調査 3 学校生活の中のどこで生き方や考え方を学んでいるのかを調査した結果が《図-5》である。

応答の数を制限しない場合には、道徳、教師との学習や活動、国語の内容、友達との遊びや会話、理科の内容、児童会、読書、学級会がいずれも30パーセントをこし、道徳や教師との学習や活動は84パーセントと高い結果であった。その中でも特に3つに制限して応答させてみると、次のような結果になった。(30名全員が3個選択、計90個内の割合)

《図-5》生き方や考え方を学ぶ場

記号	学校生活の場	人数	百分率
A	道徳の時間	24名	27%
B	教師との学習や活動	23名	25%
C	友達との遊びや会話	8名	9%
D	読書	8名	9%
E	国語の時間	7名	8%
F	その他	20名	22%



この調査の結果から、生命の尊重・人間としてよりよく生きるための学習は、子供たちの学校生活の場では、子供たちの心情に響く道徳の時間であり、子供たちが直接体験できる教師とのかかわり合いの場や友達との体を通した活動の場であるといえよう。国語の時間と応答しているのは、読書や道徳の読み物資料と同じように、教材文の内容から学ものが多いものと思われる。

このように児童の実態を見てくると、小学校高学年という発達段階の児童たちは、自分の身近の人達の中から直接観察し体験できるモデルとの行動を規範としながらも、人間としての生き方の間接的、抽象的な理想像をモデルとして求めるようになるのであろう。

2 実践活動

(1) ねらい

小学校生活も終わりに近づき、児童たちの心の中には小学校を巣立っていく寂しさや不安新しい生活に対する夢と希望や期待とが入り混じり、複雑で不安定な精神状態といえよう。

この期に小学校生活の精神面を整理させ、今後の生き方や物事にたいする考え方を自分なりに見つめ、逆境に立たされた時の心のよりどころを持たせたい。また、漫然と本を読んでいる児童には、読書の持つ意義をいっそう理解させ、テレビやマンガと文学書の味わいの違いを知らせ、一歩進んだ読書生活を確立させる。

(2) 展 開

① 事 前 (略)

各自読書カードの作成……カードの形式は略すが、内容として「自分にとって役に立ったこと」(この本を読んで、自分の生き方や考え方が進んだことなど)の欄を設けた。

② 読書発表会

プログラム、係等については(略)

③ 発表内容(紙面のつごうで、「自分にとって役に立ったこと」の欄についての発表例をいくつか上げてみる。)

S子	<p>「ベートーベンを読んで」</p> <p>どんなに苦しい事があっても、それに負けない強い人間になることが大切だと思う。ちょっとつらい事があったぐらいで、逃げ出したりするような人間では、人生生きていけないだろう。私はどんな事にも立ち向かえる素晴らしい人間になりたいと思う。ベートーベンの一生は、私の人生の大きな支えになると思う。私も人の手本になるような生き方をしていきたい。</p>
A子	<p>「ヘレンケラーを読んで」</p> <p>ヘレンケラーを読んで、私は自分で「がまんする気持ち」「努力する気持ち」が欠けていたことを実感した。それに、人生を一生懸命に生きぬくということだ。私たち人間からみるとながいような一生だが、地球や宇宙に比べればほんのわずかな時間でしかない。だからその短い人生を少しぐらいの苦しみで人生を投げ出してはいけないのだ。</p>
O男	<p>「福沢諭吉を読んで」</p> <p>自分ではしっかりとした考えを持っていたつもりでも、人の意見に動かされてしまったことがあった。この本を読んで、これからはじぶんの考えを簡単に変えないでいこうと思った。また、将来の夢があるのならその夢を実現させるためにも、福沢諭吉のように勉強につぐ勉強で頑張りたいと思う。福沢諭吉のように、世界のために働くときまでにはいけないにしても、自分なりに一生懸命頑張って、立派な社会人になりたい。</p>

K子	<p>「勝 海舟を読んで」</p> <p>勝 海舟を読み、私はどれだけ多くのことを学んだらうか。自分の利益よりも国の利益を考えるなんて、なんて素晴らしく立派なことだらうか。今までの自分を振り返って見て、とても考えられることではない。また、相手を尊重することの大切さもはっきりと知らされた。自分中心の考え方ではない生き方や考え方をしていこうと思う。</p>
N男	<p>「ナポレオンを読んで」</p> <p>ナポレオンのようにだれにも負けない勇敢さと、自分の国を心から愛する心また最後までくじげずやりぬく力こそ、ぼくのこれからの人生には大切な事だと考えさせられた。意見を言うときなども自分の思っていることが言えずにじっとだまっているのではなんにもならない。これからは、もっと勇敢さをもって生きたい。</p>
Y子	<p>「ナイチンゲールを読んで」</p> <p>自分の一生を看護にささげたとはなんと素晴らしいことだらう。自分のことよりも人々のことを考え、進んで役立とうとする。今までの私はいやなことがあるとすぐやめてしまい、苦しい事からはいつも逃げていた。これからは、自分で努力すればできる事からは逃げず、進んで人々の役に立つことをしなくてはならないと、強く心を打たれた。</p>

3 おわりに

学級読書発表会の一部分だけを数名上げてみたが、これらのことは決して今回の読書発表会のために読んで、はじめて感動したことばかりではないであろう。以前にも同じような感動や驚きを経験しているであろう。しかし、このような経験を繰り返しながら、学習し強化していくことにより、コード化された情報が、身近で体験できる行動の観察で学ばれたものとあいまって新しい行動をどのように遂行すればよいのかのアイデアを作ることができるのであらうと考えられる。

評

人間は、それぞれにかけがえのない生命を授かってこの世に生まれた存在であり、その、自他の生命を尊重し合うことは社会の基本原則でなければなりません。そして、かけがえのない自己をよりよく生かすため、個々が持つ素晴らしい可能性を耕し、さまざまな力を育てようとするところに教育の理念があります。

生命尊重の教育は、児童生徒の痛ましい事故が繰り返して生じた本市の学校教育における当面の大きな課題であり、早急かつ計画的に実践指導されなければならないものであります。

このような観点から、先生がとり組まれた研究実践は、最も当面した研究であり、貴重な実践記録であります。

- 子供たちの実践と、かかえる課題の抽出が具体的な調査に基づいてなされたこと。
- 体験の重視と場の設定の工夫とに立脚し、子供たちにとって、より身近で具体的な指導を目差したこと、等々。

児童の実態の適切な把握と、確かな指導構想のもとに積極的に実践されたことは、今後の「生命尊重の教育」推進にあたっての具体的かつ大きな一歩であると言えます。

このような実践指導をされておられる先生の誠実な御努力に対し、敬意を表するとともに、この実践記録が今後、より多くの先生方の実践の糧となることを期待するものであります。